

オーケストラ コンサート

藤原 義章：指揮

東京都交響楽団創立団員。新日本フィル首席ヴィオラ奏者、富士川町ますほ文化会館音楽監督、東京エレクトロン美術館文化ホール館長歴任。著書に「リズムはゆらぐ」「美しい演奏の科学」「音楽の生涯学習」など。

川口 聖加：ソプラノ

新潟大学大学院修了。オランダ王立音楽院(声楽科)卒業。仏独歌曲、バロック声楽曲、宗教曲、オペラ、現代曲など幅広いレパートリーを持ち、国内外で演奏活動を行う。CD「リラの花咲くころ」をリリース。

蛭川 いづみ：ヴァイオリン、コンサートミストレス

桐朋学園女子高校を経て桐朋学園大学卒業。同研究科修了。エコール・ノルマル音楽院(パリ)で高等演奏家資格を満場一致の首席で取得(審査委員賞)。新日本フィル団員を経て東京ユニバーサルフィル管弦楽団コンサートミストレスを務める。現在、ソロ及び室内楽を中心に国内外において活躍。ソロアルバム「泉のほとり」は「レコード芸術」で絶賛される。モーツァルトアンサンブルオーケストラのゲスト・コンサートミストレス。ユーオーディア・アカデミー講師。

佐藤 茜：ヴァイオリン

ドイツにて6歳よりヴァイオリンを始める。帰国後、斉藤久美、中山朋子に師事。桐朋学園大学を経て、英国王立音楽院に奨学金を得て留学し、ニコラス・ミラー、ダイアナ・カミングスに師事。音楽院内で多数受賞。現在、「カルテット・カノーロ」「アンサンブル・ロカ」、独奏、オーケストラなどで活躍中。

竹内 裕子：ヴァイオリン

桐朋学園大学音楽学部卒業。ヴァイオリンを久保田良作、室内楽を岩崎淑に師事。現在オーケストラ、室内楽を中心に演奏活動をしている。弦楽合奏『アンサンブル・クライス』メンバー。

福波 典子：ヴァイオリン

武蔵野音楽大学卒業。同大学院修了。東京フェスティバルオーケストラ・コンサートミストレスを経て、現在フリーランサー。国際会議コンサート、室内楽、オーケストラ、録音などで活躍。長谷川孝一、井上武雄、日高 毅、F. リヒネフスキー、L. グレーラー、G.フエイギンに師事。筑波大学付属高等学校音楽課程講師を経て、武蔵野音楽学園講師。

光行 澄子：ヴィオラ

武蔵野音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修了。浅妻文樹に師事。渡米、ミルトン・トーマスに師事。帰国後、東京ソリストエン団。現在はフリーで室内楽、オーケストラで活躍。「アンサンブル・クライス」「ジャパン・シンフォニア」のメンバー。

谷口 節夫：チェロ

東京芸術大学卒業。清水勝雄、堀江 泰、レーヌ・フラシヨ、青木十良に師事。NHK・FM「午後のリサイタル」に、チェロ・アンサンブル、フルート・トリオで出演。現在、フリーランサーとして室内楽、オーケストラ、弦楽四重奏団「カメラータ・フロイデ」等で活躍中。恵泉女学園非常勤講師。

アンサンブル コンサート

白木 啓之：胡弓、箏、三絃

新谷美年子・山田ミサ・中井 猛 の各師に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。 箏曲宮城会・日本三曲協会・森の会 各会員。胡弓の会「韻」同人 箏曲「小鳩会」主宰。東京都大田区在住。

奥田 伊予子：箏、三絃、十七絃

生田流正派邦楽会大師範。近江雅楽久彌、宮本雅都貴 各師に師事。NHK邦楽オーディション合格(NHK・FMで放送)。全道三曲コンクール古典の部第二位。札幌市新人邦楽演奏会にて「札幌市民芸術祭賞」大賞受賞。ドイツ、アメリカへ邦楽使節団として参加。甲府市内の中学、高校で箏曲外部講師。甲府市在住。

井上 陽：コントラバス

国立音楽大学卒業。コントラバスを西澤誠治、永島義男、池松 宏の各氏に師事。国立音楽大学オーケストラ演奏員を務め、オーケストラ、室内楽、吹奏楽、古楽器、レコーディングなど多方面で活躍中。

駒井 朗：コントラバス

国立音楽大学卒業。コントラバスを池松宏、村松裕子、溝入敬三の各氏に師事。ゲイリー・カーのサマーキャンプ(カナダ)に参加。ダンカン・マクティアのマスターコース(スイス)を受講。現在国立音楽大学嘱託演奏員、洗足学園ニューフィルハーモニック団員、相模原音楽家連盟会員。

今西 香菜子：オーボエ

13歳よりオーボエを始め、畑中正子、本間正史、柴山洋に師事。またバロックオーボエを本間正史に師事。若尾圭介、リチャード・ウッドハムス、ジョナサン・ケリー等のマスタークラスを受講。桐朋学園大学及び同大学研究科修了。現在フリー奏者。

谷口 愛：ファゴット

千葉県出身。尚美ミュージックカレッジ専門学校 本科卒業後、コンセルヴァトール ディプロマ科を修了。在学中、ディプロマフレッシュコンサートオーディションに3年連続合格、出演。また同校オーケストラとヴィバルディのコンチェルトを共演。卒業後3年間同校の演奏助手として勤務。2006年より3年間American Wind Symphony Orchestra のアメリカツァー、及びCDレコーディングに参加。ファゴットを太田茂氏より師事。室内楽を太田茂、中川良平の各氏より師事。現在、洗足学園大学演奏要員。洗足ニューフィルハーモニックオーケストラ団員。

古田 龍平：ホルン

静岡県焼津市出身。現在国立音大4年次。これまでに松岡邦忠、大野良雄、井手詩朗、日高剛の各氏に師事。またシュテファン・ドール、ブルーノ・シュナイダーのレッスンを受講。現在オーケストラのエキストラや、金管や木管のアンサンブル、中高生への指導などでも活動している。

川田 修一：トランペット

国立音楽大学を矢田部賞を受賞し首席で卒業。同大学新人演奏会、ヤマハ新人演奏会に出演。第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第3位入賞。第78回日本音楽コンクールトランペット部門第4位入選。今年3月には国立音楽大学教授陣を中心とする「くにたちフィルハーモニカー」とハイドンのトランペット協奏曲でソリストとして共演。トランペットを北村源三、熊谷仁士、山本英助、ヒロ野口の各氏に師事。現在、フリー奏者としてオーケストラ、室内楽、ソロ、ミュージカル等ジャンルを問わず幅広く活躍中。AKATUKI Brass、Brass Ensemble ZERO、Tromba Arancia、ズーラシアンプラス、各メンバー。

奥山 初枝：ピアノ

桐朋学園芸術短期大学・研究科修了。ピアノを新井 精、林 秀光に師事。和声学を師事した山田 泉の作品演奏により、平成9年山梨県芸術祭最高位・水上財団賞受賞。邦人作品演奏研究会、放送等にて出演。多方面でソリスト・合唱団体と共演を重ね、CD制作等に参加している。桐朋学園女子部講師。日本キリスト教団阿佐ヶ谷教会オルガニスト。

窪田 礼子：箏、三絃、十七絃

生田流箏曲宮城社師範。新谷喜恵子、新谷美年子、山田ミサ各師に師事。県内外及び国外(ドイツ)で演奏活動。「志ほの会」主宰。古典をはじめ現代邦楽、洋楽器とのセッションを行いながら活動中。甲府市内の中学校、県内各所で箏曲外部講師。笛吹き在住。

岩間 恒：尺八

森田柊山・坂田梁山各師に師事。NHK邦楽技能者育成会40期卒。尺八とキーボードでのユニット「ジェントル・ブリーズ」でCD「H&E」を発売。津軽三味線との邦楽バンド「天河道」で優秀賞受賞。古典曲から洋楽器、民族楽器とのセッションや現代邦楽、作曲なども手がけ、純和風ジャズグループ「風カヲル時」のメンバーとして各地で活動。CD「風カヲル時・恋」をリリースしている。月一度YBSラジオにレギュラー出演中。

オーケストラ ★は招待演奏者

指揮 藤原 義章	竹内 裕子★ 中島 晶光 中津川 友子	チェロ 青山 公彦 石田 香 久間 寧一	フルート 田中 正子 野川 沙希	ホルン 佐藤 智尋 庄司 高太 諏訪 啓太 古田 龍平★
コンサートミストレス 蛭川 いづみ★	中西 朋子 福波 典子★ 三宅 洋子	谷口 節夫★ 内藤 和子	オーボエ 今西 香菜子★ 武藤 由華	トロンボーン 岩本 大典 駒澤 敏 松並木 正臣
ヴァイオリン 新江 慎太郎 大津 成子 岡野 徳子 小野 和隆 川口 武夫 草野 まみ 小泉 瑳緒里 小谷 薫 小林 瑠美 駒澤 玲子 佐藤 茜★ 鈴木 美代子 鈴木 洋子	山田 和夫 山田 百合子 吉田 彩	中村 真由子 野呂 研次 端山 美晴 松本文 持田 澄子 森島 恵子	ファゴット 谷口 愛★ 中村 登樹康	ティンパニ 内田 則彦
	ヴィオラ 石川 八谷 大橋 光男 小木曽 典孝 工藤 綾子 小林 晃子 光行 澄子★ 南 彩子		クラリネット 奥村 彰 武田 勝正 山際 高志	ピアノ 奥山 初枝★
		コントラバス 井上 陽★ 駒井 朗★ 中川 奈美	トランペット 川田 修一★ 森山 秀一	

運営委員長

運営副委員長

運営委員

窪田 礼子
鈴木 美代子
大沢 静子／大橋 光男／岡 敦夫／川口 聖加／窪田 さやか
小林 晃子／小林 瑠美／鈴木 直子／土屋 英俊／土屋 雄一
内藤 和子／中川 奈美／中津川 友子／深田 恵美子
松上一平／山下 繁／山田 和夫

F U E F U K I M U S I C F E S T I V A L 2 0 1 1

演 奏 す る 人 と 聴 く 人 が 楽 し む 場 を と も に

第 4 回 笛 吹 音 楽 祭

2011年10月8日(土)～10日(月・祝)／笛吹市スコレーセンター

f m f

主 催 : 笛吹音楽祭運営委員会

後 援 : 山梨県／山梨県教育委員会／笛吹市／笛吹市教育委員会／(財) ふえふき文化・スポーツ振興財団

助 成 : 笛吹市地域振興促進助成事業

協 賛 : (有)相川工務店／(株)秋山／雨宮自動車興業(株)／雨宮光学機械(株)／アルプスワイン(株)／(医)石和温泉病院／石和温泉旅館協同組合(団体)
(株)石和青果市場／(有)石喜屋／伊豆食品(株)／糸柳／(株)エスワイ精機／エルバセオ・ノブレ／(株)大沢商店／(株)小野石材店
(株)甲斐不動産／(有)カザマ／春日居リハビリテーション病院サイバーナイフセンタールート20／時計・メガネ・宝石 カモシタ／(株)峡東測量設計
協和電気(株)／甲府信用金庫石和支店・笛吹支店／(株)古柏園／(株)小林リース／(株)小山電気／沢田屋薬局／(株)シャッター勝沼
(株)神宮司測量／新都市設計(株)／時計・メガネのすすき／(株)せんたくクラブ／(有)タナカ設備／(株)田丸／東八商事(有)／長坂整形外科医院
(有)早川運輸／日之出観光自動車(株)／笛吹中央病院／笛吹農業協同組合／(株)古屋工業／(株)古屋商店／(株)ホテル君佳
本坊酒造(株)山梨マルスワイナリー／(株)マルエスフリージングジャンクション／御坂農園グレープハウス／(株)見晴し園／モンデ酒造(株)
山梨信用金庫石和支店・石和南支店／(株)山梨中央銀行石和支店／(株)山梨フードサービス／山梨水処理技研(株)／(有)ワカバ若葉屋
(個人): 飯島 恵美子／飯塚 武子／岩野 桂子／風間 雅子／長田 つや子／窪田 千鶴／小島 勝一／小林 晴子／小宮山 敬／佐藤 憲／清水 洋子／神宮司 昭子
鈴木 美津子／中山 光偉／反田 信／降矢 季代子／若月 福美



笛吹市長
萩野 正直

ようこそ、「第4回笛吹音楽祭」にお越しくださいました。

笛吹市では、「みんなで奏でる“にぎわい・やすらぎ・きらめき”のハーモニー♪」を将来像に掲げ、市民や事業者、団体などの皆様の参画と協働によるまちづくりを進めております。

こうした中、音楽を愛する市民の皆さまが中心となり、行政や各種団体、そして企業やボランティアの皆さまのご協力をいただき開催する手作りの音楽祭がいよいよ開幕いたします。

当音楽祭の開催主旨に強く賛同していただきました多くの企業様からご援助を賜りましたことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

「音楽にプロとアマチュアの違いはない」、「演奏の参加資格は一切問わない」の基本姿勢に基づき、新たな展開による出会いや発見の可能性、ひとつのイベントを創りあげる達成感や充実感がより深まるコンサートになるよう企画いたしました。

2年ぶりに開催する音楽祭ですが、演奏参加者は回を重ねるごとに増え、それと同じく観客動員数も増え、多くの皆さまにお楽しみいただいております。

3月11日に発生いたしました東日本大震災は、多くの地域に甚大な被害をもたらし、今もなお、多くの住民が故郷を離れ、避難生活を余儀なくされており、日本中がこの国難を乗り越えるべく復興に取り組んでおります。

ぜひ、「がんばろう!日本」を合言葉に、音楽を通して人と人のつながりが市全体へ、さらにはもっと大きな日本全体へ、ひとつの輪へと広がっていくことを願っております。

笛吹音楽祭 運営委員長

窪田 礼子

本日はようこそお越し下さいました。

今回第4回笛吹音楽祭を迎える事が出来ましたのも、ひとえに関係者の皆様のご支援、ご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。この音楽祭は「音楽にプロ・アマチュアのの違いはない」「演奏の参加資格は一切問わない」の基本姿勢のもとに、演奏する人と聴く人が笛吹の地に集まり、純粋に音楽を楽しむ事をテーマに開催されます。

開催初日の「アンサンブルコンサート」では和楽器が演奏され、最終日には「オーケストラコンサート」合唱」が催され、まさに和・洋一体となって楽しめる音楽祭となっています。

心ゆくまでどうぞお楽しみ下さいませ。

胡弓、箏、三絃：白木 啓之　　箏、三絃、十七絃：奥田 伊予子　　箏、三絃、十七絃：窪田 礼子　　尺八：岩間 恒

千鳥の曲・四方の海：吉沢検校 作曲・中島雅樂之都 作曲

箏と胡弓の為の楽曲。「古今和歌集」、「金葉和歌集」から千鳥を詠んだ和歌二首を採り歌として作曲。四方の海(よものうみ)は、千鳥の曲に合奏出来る箏曲として作曲。

三段獅子：佐山検校 作曲

地唄の「獅子もの」の中でも最も古いもので、元禄の頃には「浮れ女」という曲で唄われていました。なぜかは解っておりませんが「砦もの」の前唄に使われています。

落葉の踊り：宮城道雄 作曲

風に吹かれて落ち葉が舞う印象を感覚的に音楽化した箏・三絃・十七絃の三重奏曲。作曲者の考案した十七絃という新しい楽器をこの曲にはじめて用い、三絃や箏の奏法にも工夫をこらし効果的に用いている。

すりばち・連木・せっかい「打合せ」：油屋茂作 作曲・京都の里石 作詞

「打合せ」とは、異なる曲を同時に合奏する特殊な演奏形式。油屋茂作作曲の「すり鉢」という曲に対し「連木(すりこ木)」という曲が作られ、さらにおせっかいな人が「せっかひ」(すり鉢についたものを掻き落とす道具)という曲を作って、「打合せ」という演奏方式が生まれた。

雪月花によせて：吉崎克彦 作曲

「雪月花」という言葉は、日本の四季の美しさを古来の人々が託して来た熱い想いを表す代表的な言葉として使用されるが、この様な日本の自然感とそこに託された想いを、日本の伝統楽器を用いて現代的感性で表現してみた。

ソプラノ：川口 聖加　ヴァイオリン：蛭川 いづみ　ヴィオラ：藤原 義章　チェロ：谷口 節夫　ピアノ：奥山 初枝

コンサートアリア <ああ、優しい星たちよ、もし天に> K.538：モーツァルト

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 K.478：モーツァルト

参加者の自由な発表の場

笛吹市太鼓連合

笛吹市文化協会絵画部

指揮：藤原義章　管弦楽：笛吹音楽祭オーケストラ　合唱：笛吹音楽祭合唱団

フライシュッツ (魔弾の射手) 序曲：ウェーバー

アヴェ・ヴェルム・コルプス：モーツァルト

カンタータ147番よりコラール：バッハ

「メサイア」よりハレルヤ：ヘンデル

―― 休 憩 ――

交響曲第1番：ブラームス

ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 Op.77

ドイツの最も重要な国民オペラ「魔弾の射手」の序曲です。ドイツ語のフライシュッツ (Der Freischütz) は英語でfree shooter日本語で「自由自在に当てられる射手」:「魔弾の射手」としています。「魔弾の射手」はドイツロマン派初期を代表する作曲家・指揮者カール・マリア・フォン・ウェーバーの初めての本格オペラであり、それまでイタリア語のオペラが席卷していたドイツに母国語のオペラの道を開いた記念碑的な作品となりました。舞台は17世紀半ばのボヘミア。オペラのあらすじは、狩人マックスは、恋人アガーテと結婚するためには狩猟競技で領主オットカール侯爵を納得させなければなりません。しかし、このごろのマックス、どうも射撃の腕が振るいません。悪人カスパルの誘惑に負けて、魂を悪魔ザミエルに売り渡し、魔弾(必ず目標物に当たる)を手に入れ、競技に臨みます。しかし弾が放たれるとアガーテが倒れ大騒ぎとなり、魔弾の一件も明るみに出てしまいます。マックスは罪を問われますが改心し、神への信仰を約束し、晴れて二人は結ばれる…のハッピーエンド。序曲は、深い森の雰囲気を表すアダージョの序奏に続いてモルトヴィヴァーチェの主部、不気味な狼谷の魑魅魍魎うごめく嵐の場面、最後の愛の勝利、とテンポの変化の表現が非常に難しく、オーケストラの演奏技術も非常に高度なものが要求されます。

モーツァルト：モテット『アヴェ ヴェルム コルプス

“ave verum corpus”「まことのお体よ」』 K.618

バーデンの合唱指揮者アントン・シュトル (Anton Stoll, 1748-1805)の求めに応じて聖体祭のミサのために1791年6月半ばに書かれました。療養中の妻コンスタンツェの世話を親身にみてくれたシュトルへの感謝を込めたとされる作品です。1791年といえぼモーツァルトの没年。約半年後の12月5日午前0時55分にはモーツァルトはこの世を去ってしまうのです。音楽は非常に簡潔で、合唱は一部を除いて全パートが同じ歌詞を同時に歌うようになっていて、ミサ曲等の宗教曲にて通常使われる峻厳なポリフォニーを感じさせません。彼はこの曲を友人のため単純な形にしたともいわれています。たった46小節、3分半の“アヴェ ヴェルム コルプス”、濃密かつ透明、単純かつ微妙、深みと高さ、こういう音楽の前には、つくづく言葉は無力だと思われます。まさにモーツァルト最晩年(といっても35歳)の珠玉の名品というべきでしょう。

J.S.バッハ：コラール「主よ、人の望みの喜びよ」

カンタータ第147番から

バッハは、若い頃から教会の毎週の礼拝のために教会カンタータなどの声楽作品を作曲し、そして演奏するという仕事をしていました。『主よ、人の望みの喜びよ』が含まれる『カンタータ第147番《心と口と行いと生活で》』は、1723年7月2日の礼拝のために書かれています。初演された礼拝の日は、処女懐胎を知らされたマリアが親戚のエリサベトを訪ねたことを記念する〈マリア訪問の日〉といわれる喜ばしい雰囲気に満ちた祝日なのです。器楽による出だしの三連音の8分の9拍子のテーマと、それに遅れて出てくる声楽による4分の3拍子のコラールテーマが組み合わせった不思議な立体感は大変魅力的です。マイラ・ヘスによるピアノ編曲で一般に有名になり、ポピュラー音楽にも編曲されています。

ヘンデル：ハレルヤコーラス「メサイア」から

ドイツ生まれのヘンデルを、日本ではドイツの作曲家としていますが、後にイギリスに帰化したので英国人作曲家、正しい名前はジョージ・フリデリック・ハンデルといいます。オラトリオ「メサイア」はヘンデルの最高傑作。全曲演奏に2時間半を要するイエス・キリストを主題とした宗教曲で全体は3部構成。第1部はイエスキリストの降誕の預言とその成就、第2部はキリストの受難と贖罪、第3部は復活と永遠の生命(歌詞は英語) となっています。ハレルヤコーラス「Hallelujah!(ハレルヤ! :主を讃えよ!)」は第2部の最後に置かれた、オーケストラとともに演奏する壮大な合唱曲です。1843年はじめてロンドンで演奏された際、これを聴いた英国国王ジョージ2世が感激のあまり起立したと伝えられています。単独に演奏されることも多く合唱コンクールの課題曲にしばしば使われます。

ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 Op.68

ドイツロマン派の大作作曲家ブラームスは生涯に4曲の交響曲を作曲しましたが、4曲とも彼の代表作であり、交響曲ジャンルでのすばらしい傑作、世界中で盛んに演奏される名曲となっています。ブラームスという天才は自分の歴史的存在を常に意識し、厳しく推敲を重ねた自信のある作品しか残さなかった作曲家です。この交響曲第1番を世に出すに当たってもスケッチを繰り返し、友人に意見を聞き、20年間も慎重に構想を練り、先人ベートーヴェンの9つの交響曲に並ぶ作品を目指したのです。評判は初演時からすばらしく、名指揮者ハンス・フォン・ビューロウは「これは第九交響曲に続く第十交響曲である」と讃えました。曲は先ず第一楽章冒頭に置かれた遅いテンポのかなり長い序奏で始まります。C (ハ音)のティンパニの連打に乗って全楽器が強奏するこの序奏は、続く主要部を暗示しながら「これから素晴らしいことが始まるぞ」と気分が高まります。あらゆる交響曲で最も印象的な開始だと思われます。低音の一撃ではじまる主要部は短調で書かれた非常に迫力のあるダイナミックで構成的な楽章。第二楽章は明るく緩やかな音楽です。楽章半ばから非常に美しいヴァイオリンソロのオブリガートが聞かれます。第三楽章は素朴で優雅な感じのロマンス、木管楽器大活躍です。やや小ぶりの第二、三楽章のあと再び力のこもった第四楽章が峻厳なおもむきの序奏で始まります。この序奏も続く主要部の材料を使って念入りに作曲されています。高々と鳴り響くアルペンホルンのテーマとトロンボーンの演奏するコラールを含む60小節もある序奏が終わると弦楽器で堂々と主部がはじまります。この主題を「ベートーヴェンの第九交響曲合唱主題とそっくりだ」と初演当時の批評家が批判したところ、ブラームスは「馬鹿者どもは皆、同じようなものとして受け止めてしまうものだ」と語ったそうです。全曲はベートーヴェンの好んだモットー「闘争の後の勝利の歓喜」に同調し最後は輝かしく盛り上がって終わります。ブラームスの交響曲第1番はあらゆる交響曲で最も演奏される機会が多いと思われます。聴衆の人气が高いこともさることながらオーケストラにとっても本当に演奏し甲斐のある音楽で、全てのパートの演奏者が自分の重要な役目を感じ、参加する喜びを感じる音楽であるからでしょう。

(Va.大橋光男)